

一部マスコミの潰瘍性大腸炎の無理解について抗議します ～安倍自民党総裁就任関連の報道から～

IBDネットワーク

(潰瘍性大腸炎とクローン病の全国患者会連絡網)

最近の安倍自民党総裁関連報道の中で、過去の首相辞任のことから、「お腹が痛くてやめたなどとは小学生の言い訳」「たかだか腹痛、下痢程度で」に代表される、潰瘍性大腸炎の無理解から生じる発言が相次いでいます。

潰瘍性大腸炎の悪化時は、酷い腹痛・下痢・下血が生じて、患者には堪難い症状に襲われます。その病気から生じる辛い症状に対して「差別的」とも言える表現は、我々患者を深く傷つけ、また社会に対して誤解を生じるものであります。

潰瘍性大腸炎となった方のうち、多くの方が元気を取り戻され、安倍さんの様に、活動的に動かれる方もおられます。一方、悪化を繰り返し、手術まで至る方もおられます。

今回の報道では、潰瘍性大腸炎だけでなく、多くの「難治性疾患（難病）」と言われる方々も心を痛めています。

マスコミに対して、潰瘍性大腸炎や「難治性疾患（難病）」への「勉強」と「理解」を求めます。そして、正しい基礎知識に基づいた、偏見のない報道を求めます。